

# ZEPHYROS

ゼフェロス No.14

The National Museum of Western Art, Tokyo 国立西洋美術館ニュース

ISSN1342-8071



《シャンボール城：九月（シャルル・ルブランの下図に基づく）》[部分]  
17世紀後半 フランス王立ゴブラン織物製作所製

## 織りだされた絵画

—国立西洋美術館所蔵17-18世紀タピスリー—

会期： 2003年3月18日(火)～5月25日(日)

主催： 国立西洋美術館 協力： 西洋美術振興財団

織物の起源は古く、遠い先史時代にまで遡ることができます。ヨーロッパも古代ローマ時代以来、織物は生活のあらゆる場所で盛んに用いられていました。やがて、中世期になると、とりわけ北方の国々では寒さを凌ぐための実際の機能と、宗教的、世俗的モチーフを配した装飾的な用途を兼ね備えた、華やかな「綴れ織り」（通常フランス語で“タピスリー”と呼ばれます）芸術が盛んとなりました。古代西アジアや古代エジプト、コプトなどに起源を持ち、羊毛や絹の糸を用い、平織りで様々な絵柄や文様

を織りだしたタピスリーは、13-14世紀頃から、ヨーロッパ各地の城や聖堂、邸館などの居室を飾り始めます。制作は主としてフランドルや北フランスに点在するアトリエを中心にして行われ、やがてルネサンス、バロックの時代を通じて、ヨーロッパの工芸美術における、最も創造的で特徴的な分野のひとつを形成していきました。



《田園の集い》18世紀前半 ベルリン製  
株式会社 日本興業銀行寄贈

国立西洋美術館には、これまで、近世タピスリー芸術の頂点ともいわれる、ルイ14世治下のフランスで織られた著名なゴブラン織り連作〈大王の邸館尽くし〉の中の1点《シャンボール城：九月》が所蔵されていました。フランソワ一世によって建てられたルネサンス時代の名城シャンボールを背景に、馬車の行列、王の富を象徴するような豪華な織物や壺、様々な動物や人物などがデザインされたこの作品は、おそらく日本に所蔵されるタピスリーとしては最も重要なものの一つといえるでしょう。しかしながら、大型作品であるうえに、繊細で脆弱な絹糸が用いられていることによる保存上の理由に加えて、コレクション中に同種のタピスリーが皆無であることから、展示は非常に難しく、なかなか公開の機会に恵まれませんでした。

他方、2001年度に糖業協会および日本興業銀行（当時）より、かつて松方コレクションに属していた計6点の見事なタピスリーの寄贈をいただいたことは、当館の歴史にとって画期的な出来事でした。17世紀から18世紀におよぶ、わが国では稀な、タピスリーの一括コレクションがここに形成されることとなったのです。

今回、小企画展として、ヨーロッパのタピスリー芸術の精華であるこれら7点の作品を初めて一堂に公開し、一部の作品に新たに施された修復・洗浄の成果も含めて、日本では接することの少ないこの重要な一分野を紹介いたします。ルネサンス時代を過ぎて、とりわけ17世紀に入ると、タピスリー制作はしばしば、ルーベンス、テニールス、ヴェーエ、ルブラン、ブッサンなどの著名画家の下絵を基にすることが多くなりますが、それでも作品の完成までには、さまざまな画家や工匠、織り師などが関与し、あくまで集団的な制作形態が維持されていきました。実際の作品を見れば、当時成立したアカデミーの絵画芸術重視という流れの中であって、有名・無名の工匠たちは、タピスリー独自の表現を追い求めたことが分かります。

彼らの情熱と技術は、今日の我々の眼で見ても、まさに瞠目に値するものといえるでしょう。

（主任研究官 高橋明也）



《神話の一場面》1700年頃 オドゥナルド製  
株式会社 日本興業銀行寄贈

＊観覧無料

（ただし、常設展は別途観覧料が必要となります。）

## 受難伝 —国立西洋美術館所蔵のドイツ・ルネサンス版画による—

会期：2003年3月4日（火）～5月25日（日）

十字架上の死と復活に至るキリストの苦難の各場面を連作のかたちで表した受難伝は、中世を通じてキリスト教美術の重要な主題として、聖堂の祭壇画や壁画、彫刻や写本挿絵などに取り上げられています。さらにゴシック時代後期にあたる14世紀以降ともなれば、キリストの苦難をありありと眼前に思い浮かべる、という当時の新たな信仰の課題にそって、受難伝は4つの福音書の記述に留まらず、当時の風俗をも交えて、豊かで具体的な描写を展開するようになります。

こうした受難伝はまた、15世紀の頃から広まり始めた版画にも好んで表わされました。とりわけドイツでは、ショーンガウアーやデューラー、クラーナハ、アルトドルファーといった、中世の末からルネサンスに活動した代表的な画家たちが版画による受難伝連作を手掛けています。彼らは、聖堂を飾る祭壇画や壁画とは異なる版画という手段によって、新たなルネサンスの受難伝を表わしました。本展はごく小規模な展覧会ではありますが、国立西洋美術館に所蔵されるデューラーとアルトドルファーの連作を中心に、版画という新たな媒体を通して、受難伝という伝統的な主題がどのように表現されたかを見てゆきたいと思います。

(主任研究官 田辺幹之助)



アルブレヒト・デューラー  
連作「銅版画受難伝」より  
《ユダの裏切り》  
1508年 エングレーヴィング



アルブレヒト・アルトドルファー  
連作「人類の墮罪と、キリストの生涯  
と受難によるその救済」より  
《復活》  
1513年頃 木版画

## ◆常設展観覧料

一般……………420円(210円)

高校・大学生……………130円(70円)

小・中学生……………無料

※( )内は20名以上の団体割引料金



## ロダン《うずくまる女》とそのヴァリエーション

the national museum of western art, tokyo

この作品で、女性は折り曲げた右膝の内側に右肩を密着させ、そこに右頬を寄せているため、小さくかがめた体をさらにねじるという不自然な姿勢をしています。ポーズをとったのはロダンお気に入りのモデル、アデル・アブルツェッツィといわれています。

国立西洋美術館では、《うずくまる女》とほぼ同じ形の像を別に3点見つけることができます。

1点は《地獄の門》中央

上部、《考える人》の向かって左背後に埋めこまれるように置かれている小像。ここでは《考える人》との位置関係から、左足の形が変更されています。もう1点は《わたしは美しい》と名付けられた2人像。男性に抱きかかえられている女性は、右手の位置が違っています。《うずくまる女》のヴァリエーションと考えられます。そして3点目、《わたしは美しい》の組み合わせがそのまま《地獄の門》向かって右側の柱上部に浮き彫りとしてとりこまれているのです。

このように、しばしばロダンはひとつの像をもちいて、形を一部変えたりサイズを変えたり、ときには別の像と組み合わせるなどして、新たな作品を生みだしていきました。こうしたことができるのも、ブロンズ彫刻というものが、同じ形を複数、しかも異なった大きさでつくりことができる技術であるからといえるでしょう。そしてロダンは、ある形で作品をつくったときにそこで終わらせるのではなく、その形を次なる展開のための素材としてとりおき、必要に応じてとりだし、別の作品に利用していったのです。

(主任研究官 大屋美那)



オーギュスト・ロダン  
《うずくまる女》  
1882年頃 松方コレクション ©安斎重男



オーギュスト・ロダン  
《地獄の門》(部分)  
1880—1917年  
松方コレクション

「織りだされた絵画」展に関連して下記のプログラムを実施しますので、ぜひご参加ください。

### ◆記念講演会

●4月5日（土） 14：00～15：30（3月22日締切）

「タピスリーの保存と修復—《姉たちに贈り物をするプシュケ》を中心に」

石井美恵（染織品保存修復師）

●5月10日（土）14：00～15：30（4月26日締切）

「絵画と工芸の間で—ヨーロッパのタピスリー芸術」

高橋明也（国立西洋美術館主任研究官）

場所：講堂

定員：145名（聴講無料）

応募方法：往復はがきに聴講希望日、氏名（1名様限り）、住所（返信にも）、電話番号をご記入の上、下記の宛先にお申し込みください（締切日の消印有効）。応募者多数の場合は抽選になります。

宛先：〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7

国立西洋美術館 「織りだされた絵画」展 講演会係

### ◆ギャラリートーク

展覧会会場で、タピスリーと絵画の関係について、染織技法の話も交えながら解説を行います。

●日時：3月28日（金）、4月4日（金）、5月16日（金）

毎回 14：00～（約40分）

集合場所：展覧会会場入口ロビー

\*この展覧会は入場無料ですので観覧券は必要ありません。

### ●先生のための観賞プログラム

小・中・高等学校の先生方を対象とした特別展の観賞プログラムです。展覧会の趣旨や作品について40分ほど説明した後、自由に展覧会をご覧ください。プログラムは無料です。下記の宛先までお申し込みください。

●3月28日（金）17:30～（17:00受付開始）（3月14日締切）

場所：講堂

定員：145名

応募方法：往復はがきに、住所（返信にも）、氏名（1名様限り）、電話番号、所属学校名、担当教科をご記入の上、下記の宛先にご応募ください（締切日の消印有効）。応募者多数の場合は抽選になります。

宛先：〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7

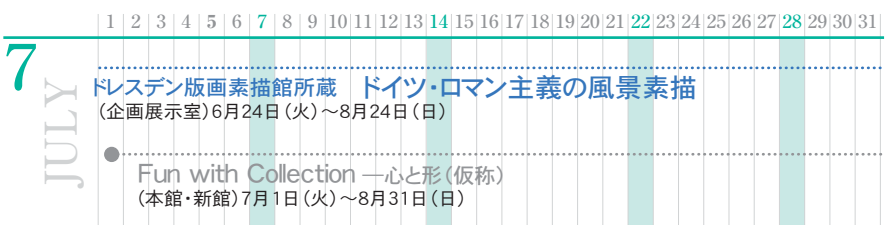
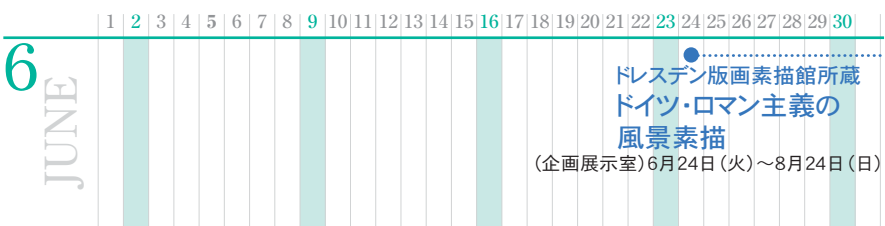
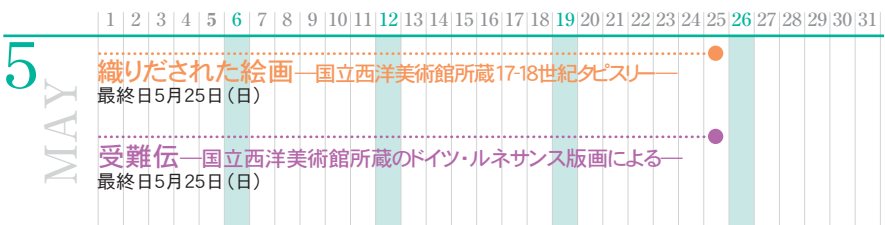
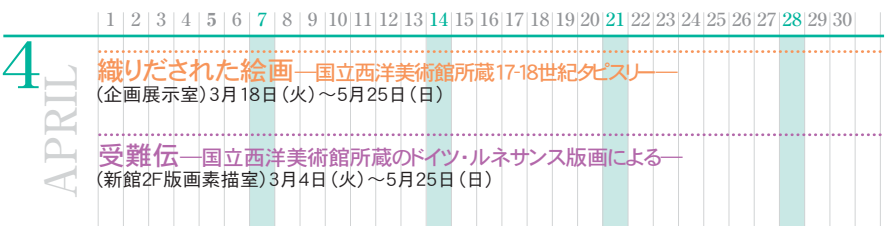
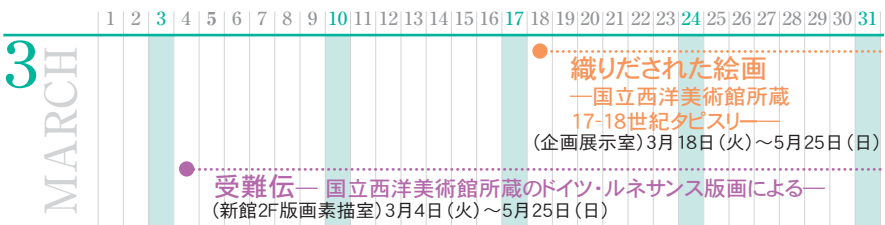
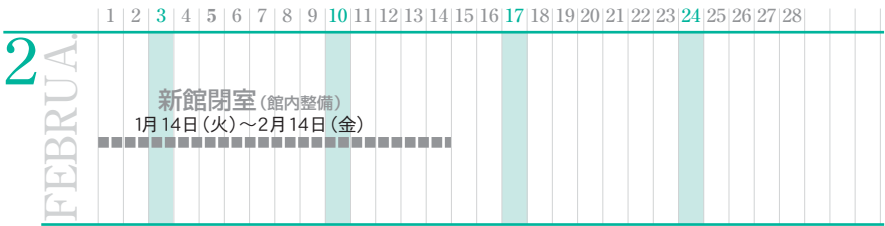
国立西洋美術館「先生のための観賞プログラム」係

# 展示カレンダー [企画展示 / 常設展示] 2003年2月～2003年7月

## 常設展示 (本館・新館)

ロダンの彫刻と、中世末期から18世紀末頃までのオールド・マスターの絵画を本館で展示しています。新館では、モネ、ルノワールなどのフランス近代絵画を中心に19世紀半ばから20世紀の絵画を展示しています。

■ 休館日



※展覧会名、会期、内容等は変更されることがあります。

### 国立西洋美術館

- 所在地…〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
- 開館時間…9:30～17:00、金曜日～20:00  
(入館は閉館の30分前まで)
- 休館日…月曜日(ただし、月曜日が祝日あるいは振替休日となる場合は翌火曜日) 年末年始(12月28日～翌年1月4日)
- 常設展無料観覧日…毎月第2、第4土曜日と文化の日
- お問い合わせ…ハローダイヤル:03-5777-8600  
<http://www.nmwa.go.jp/>

ZEPHYROS

ZEPHYROS 第14号

編集・発行 国立西洋美術館  
/平成15年2月20日(年4回発行)  
協力 (財) 西洋美術振興財団  
印刷 (株) アイネット

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています